

東部環状線近隣の 農業振興と屋上緑化について

泉澤 信哉 議員

①東部環状線工事の現状と
近隣の農業振興について

質問 東部環状線改良事業の進捗状況と供用開始予定、また、通行可能な交差部の既存市道について伺います。

答 平成26年度末の事業進捗率は、事業費ベースで68%、用地取得率では99%です。供用開始は東日本大

震災等の影響で遅れていますが、平成29年度末を予定しています。市道交差部の通行は、二車線供用期間は従来どおり保全されます。

質問 沿線周辺営農者への今後の対応等を伺います。

答 地区の農事役員等と連携し、営農者の要望にも配慮した対応を検討します。

質問 供用開始後の農業振興についてお伺いします。

答 耕作者の意見や意向を充分お聞きし、環状線の南側と北側の農地の交換による農地集積を行い、耕作の利便性を確保していきたいと考えております。

②緑化推進による猛暑対策について

質問 市庁舎屋上で行った猛暑対策の実証実験の結果、「最も温度上昇抑制効果があったのは屋上緑化である」が維持管理等の課題が多い

とお聞きしています。一昨年、乾燥に強く雨水以外の灌水が不要で生育温度も広く、維持管理が容易であることから、屋上緑化の課題を解決できる可能性の大きい「常緑キリンソウ」を使用した袋方式工法を当局に情報提供しましたが、その後の研究や考えを伺います。

答 ご提案いただいた常緑キリンソウによる屋上緑化は、施工上の制約や管理等の課題を解消できる方式と認識し、本年3月より市

庁舎敷地内で生育状況の観察を開始しました。今後は、温度抑制の検証を行うと共に、費用対効果も検討してまいりたいと考えています。

また、民間施設等へ広く紹介し、市街地緑化の手法として役立てたいと思います。
要望 水緑都市宣言を行っている本市の歴史的意味からも、戦略的緑化政策による猛暑対策を発信し「日本一暑いけれど快適なまち」として世界に向けてPRしていくことを要望します。

つつじが岡公園と 四季型公園について問う

小林 信 議員

管理体制は十分なのか

質問 県から市に移管になり管理面積が増大し、管理体制は十分尽くしているとのことですが、水生植物池の現状や日本庭園の池・もみじの池の浄化、芝生の中にクローバーが繁茂して芝生が浸食されている問題などの管理面が不十分ではな

いのか。

目を行き届かせ管理したい

答 水生植物池については、植物が少ないので補植等を行い、池については、水を入れ替えるなど至急対応したいと考えています。芝生については、年3回業者に委託しておりますが、管理については、目を行き

届かせて十分管理してまいります。

入園料減少で財政負担増加

質問 入園者数の減少により、入園料収入は5640万円ほどで、当初予算では8000万円強を見込んでいたため、2400万円の赤字になった。県立のときは負担はなかったが、赤字は全部市の負担となる。当初予算を上回る収入があれば財政が潤うが、経営的認識はどうなっているのか。財政負担はやむを得ない

答 つつじの古木群は市民の大切な財産であり、保護育成して後世に引き継ぐためには、ある程度市の財政的負担はやむを得ないと考えております。

魅力ある感動できる公園に

質問 四季型公園は完成し、素晴らしいと思っっているようですが、感動する市民はいないのではないのでしょうか。随分認識にずれがあると思います。家族連れで訪れて魅力ある公園のために、バーベキュー広場や親

公園の基本構想をつくり

答 今年度より3か年かけ、公園運営策定事業として公園の基本構想を策定していく考えであります。具体的四季型公園に向けたバーベキュー広場や遊具、ドッグランについてですが、十分研究させていただきたいと思っております。